

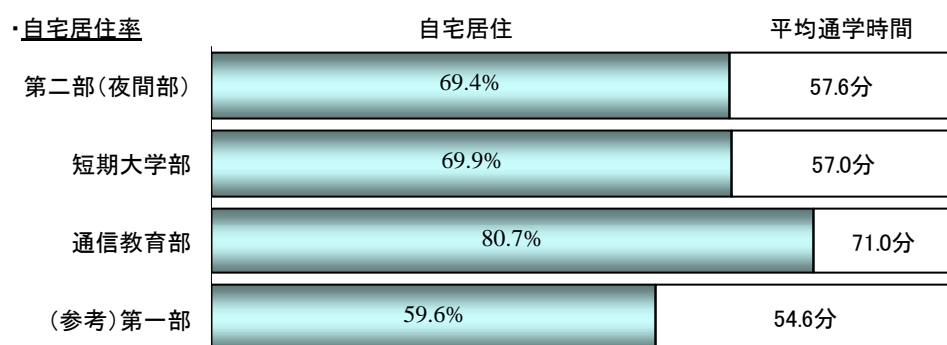
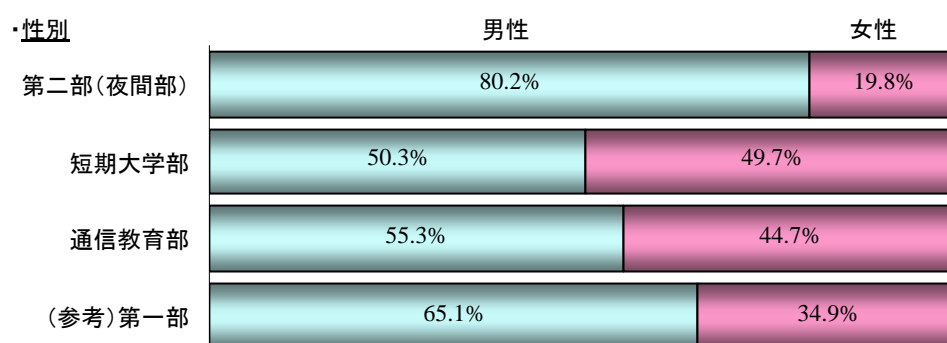
第10章 第二部, 短期大学部および通信教育部学生の実態

1. 学生の特性

第二部(夜間部)は男性が80%, 短期大学部と通信教育部は男女半々。
第一部の学生より自宅居住者の比率が高く通学時間も若干長め。

学生の男性比率を見ると, 法律学科・経済学科から成る第二部(夜間部)は80.2%, 商経学科・建設学科・農学科などから成る短期大学部は50.3%, 通信教育部(うち昼間スクーリングの学生)は55.3%となっています。第一部(昼間)と比較すると, 第二部(夜間)男性比率が非常に高く, 短期大学は女性比率が高くなっています。

自宅居住者は, 千代田区三崎町キャンパスの第二部(夜間部)は69.4%, 三島・船橋・湘南にキャンパスが分かれる短期大学部は69.9%, 通信教育部(うち昼間スクーリング受講生)は80.7%となっており, 第一部の学生より自宅居住者の比率が高くなっています。平均通学時間をみると, 第二部(夜間)・短期大学部で57分台と第一部の学生より若干長めとなっています。通信教育部の昼間スクーリング受講生は, 遠方からの通学者が多いようであり, 平均通学時間は71.0分となっています。



2. 勉学態度

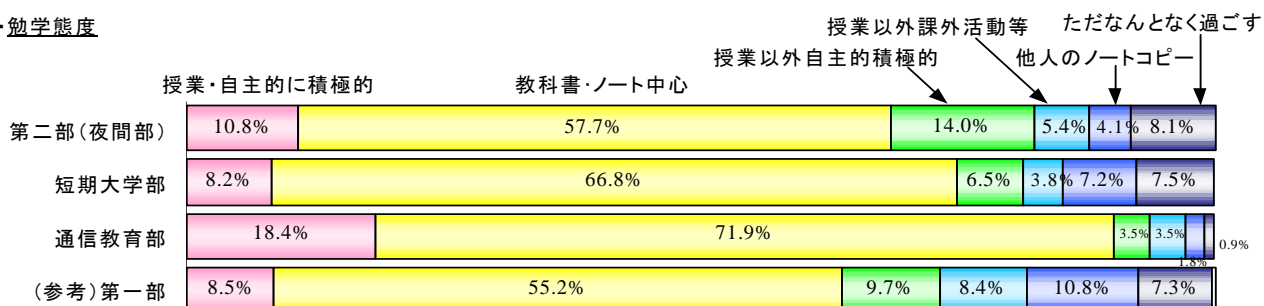
「教科書・ノートを中心に必要単位を取得」が多数派。第一部より比較的まじめな勉学態度の学生の比率が高い。特に通信教育部。比較的まじめな勉学態度の学生の比率は第二部(夜間部)、短期大学部、通信教育部共に増加傾向が顕著。

勉学態度を見ると、「教科書・ノートを中心に必要単位を取得」するようにしている学生が通信教育部で71.9%を占めており、短期大学部では66.8%、第二部(夜間部)では57.7%と、第一部の学生(55.2%)より比率が高くなっています。

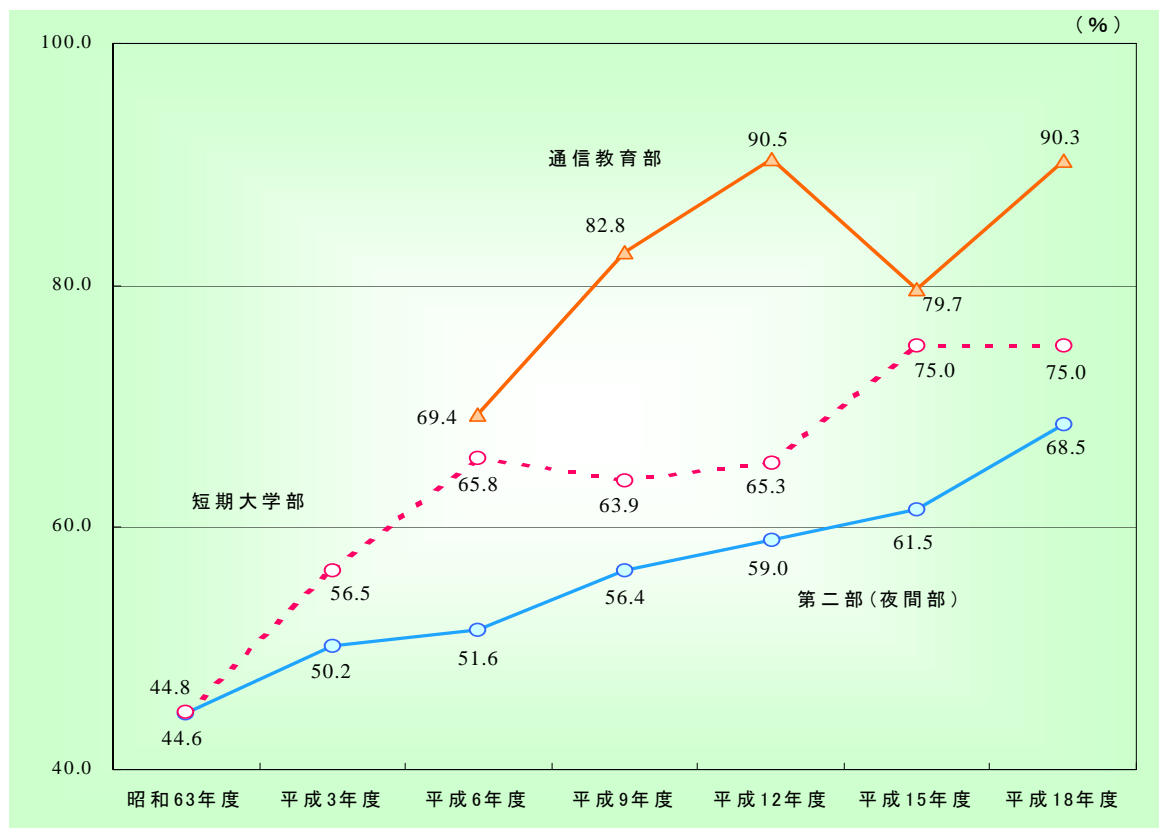
第二部(夜間部)は「授業より自分で積極的なテーマにとりくみ勉学」が14.0%、通信教育部では「授業や自主的テーマで積極的に勉学」が18.4%と積極的勉学を行なっている比率が高くなっています。

経年変化を見ると、「授業や自主的で積極的な勉学態度」と「教科書・ノート中心」を合計した比較的まじめな学生の比率は、通信教育部では平成6年度より約20ポイント増加し90.3%、短期大学部では昭和63年度より約30ポイント増加し75.0%、第二部(夜間部)では同年度より約24ポイント増加し68.5%となっています。

・勉学態度



・勉学態度の経年変化



(注) 「授業や自主的で積極的な勉学」と「教科書・ノートを中心に必要単位を取得」の%の合計

3.授業態度(熱心さ)

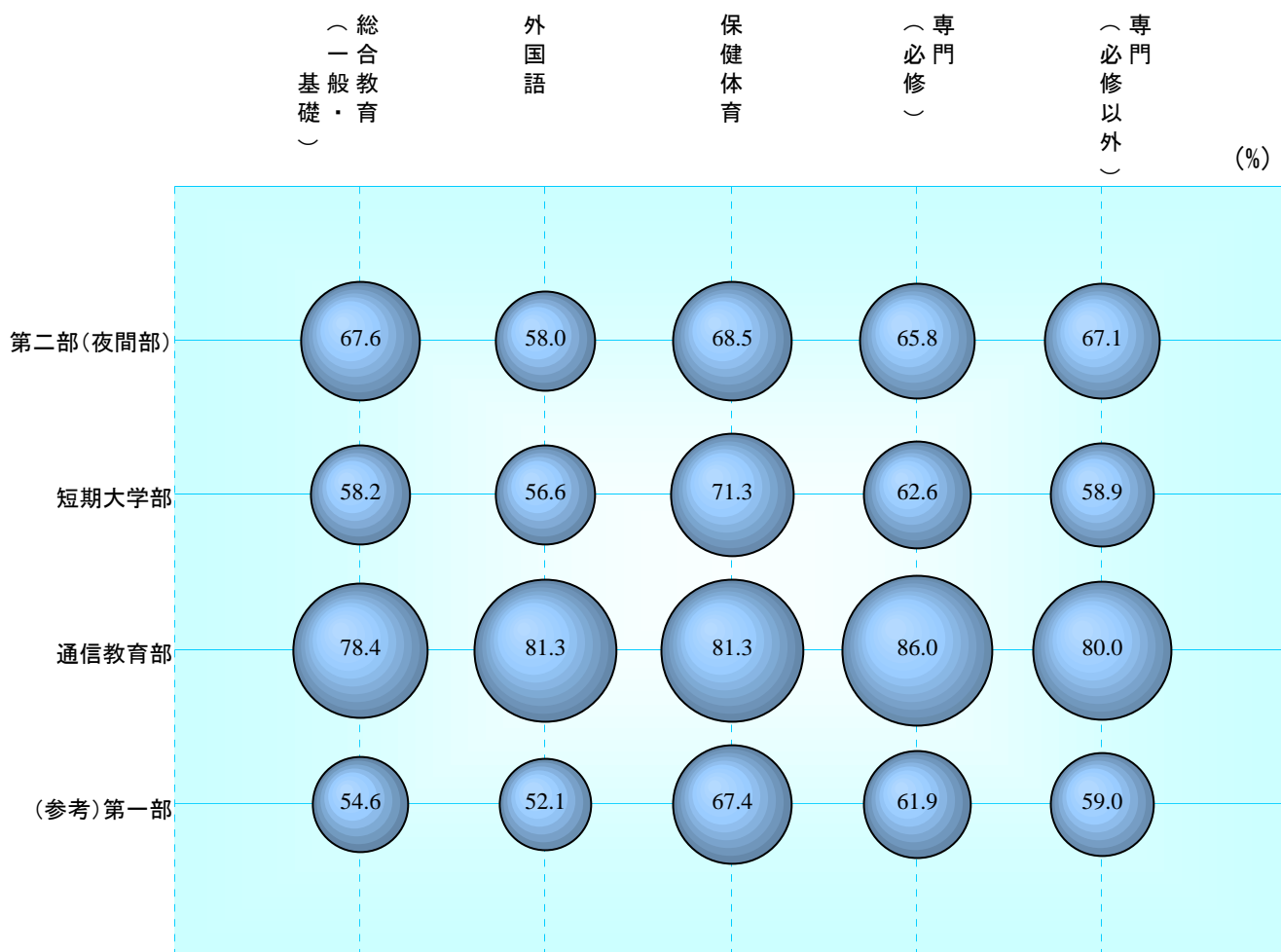
通信教育部では全分野で熱心な学生の比率が高い。
第一部学生と比べると、短期大学部はほぼ同水準、第二部(夜間部)は高い傾向。

授業態度について「熱心」と「まあまあ」を加えた比率を学部別に見ると、第二部(夜間部)では、保健体育で68.5%、総合教育で67.6%、専門(必修以外)で67.1%、専門(必修)で65.8%と、外国語以外は70%弱と高くなっています。

短期大学部では、保健体育が71.3%で高く、専門(必修)は62.6%となっていますが、他の分野では50%台と低めになっています。

通信教育部では、専門(必修)が86.0%と非常に高く、他の分野でも約80%と全般的に熱心な授業態度が見られます。

第一部の学生と比較すると、短期大学部はほぼ同水準、第二部(夜間部)は全般的に授業態度がより高い傾向が見られます。



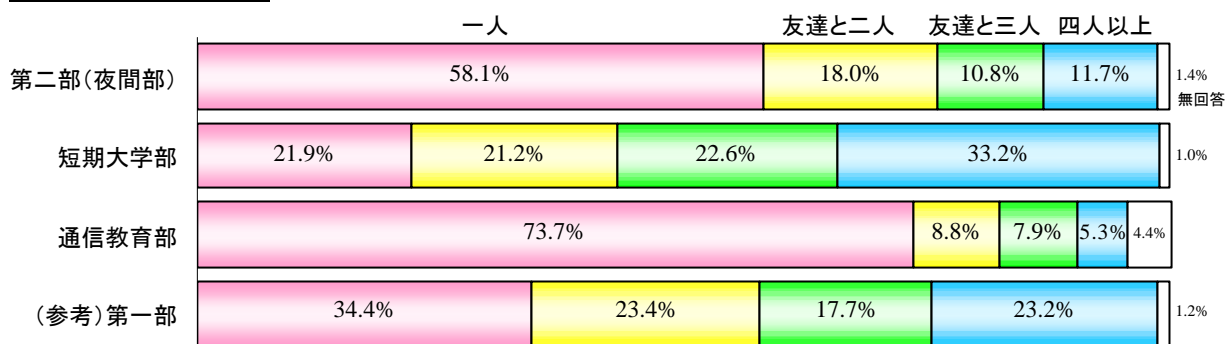
4.空き時間の過ごし方

通信教育部と第二部(夜間部)では空き時間に一人で過ごす学生、短期大学部では大勢の友達と過ごす学生が多い。過ごす場所は図書館が半数強でトップ。

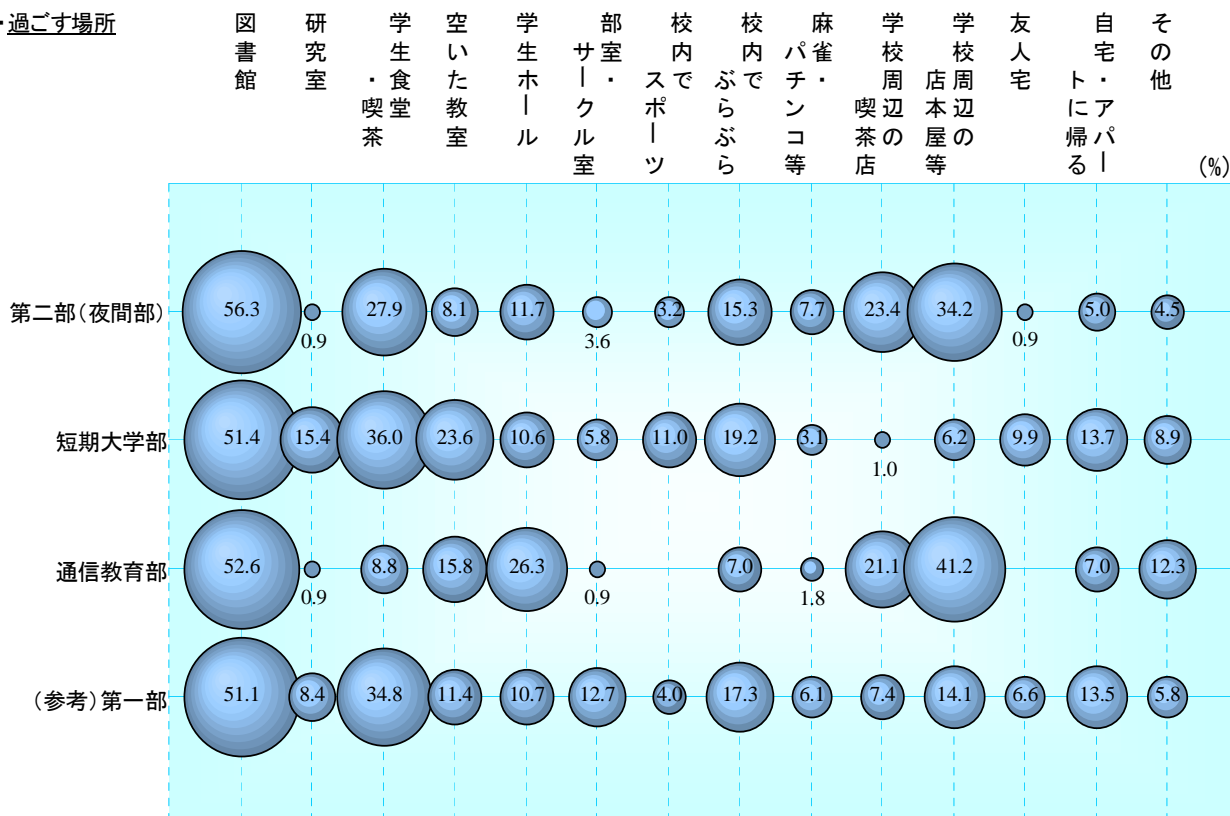
学内で空き時間ができた時に一人で過ごす学生の比率は、通信教育部で73.7%、第二部(夜間部)で58.1%と高い点が目立ちます。短期大学部では、一人は21.9%にとどまっており、友達と「二人」が21.2%、「三人」が22.6%、「四人以上」が33.2%となっており、第一部と比べても、比較的大勢の友達と過ごす学生の比率が高い傾向にあります。

空き時間に過ごす場所を見ると、第二部(夜間部)、短期大学部、通信教育部共に「図書館」が50%台でトップとなっており、第一部と同じです。第二部(夜間部)と通信教育部では「学校周辺の店・本屋等」、短期大学部では「学生食堂・喫茶」が二番目となっています。

・空き時間に過ごす友達の数



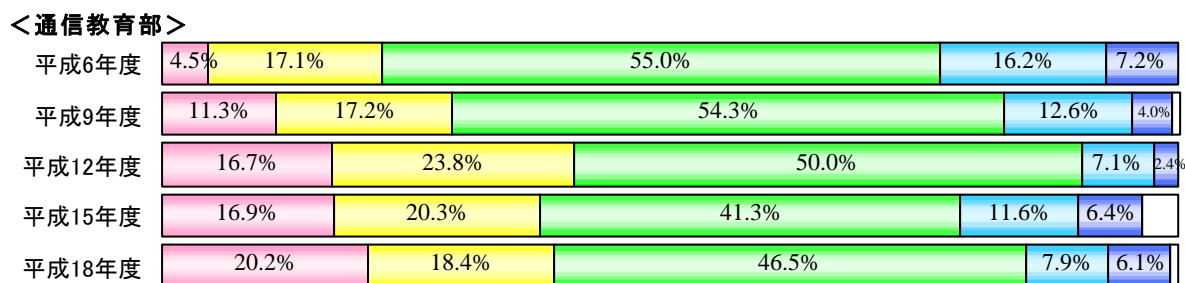
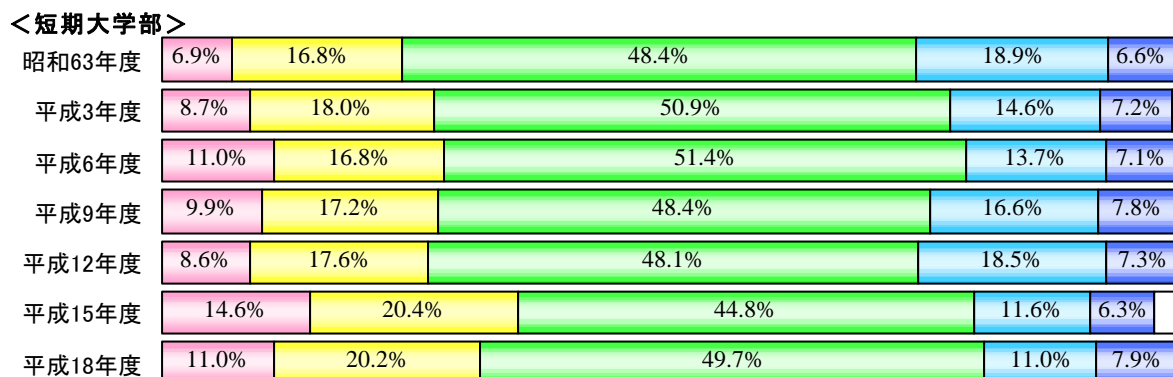
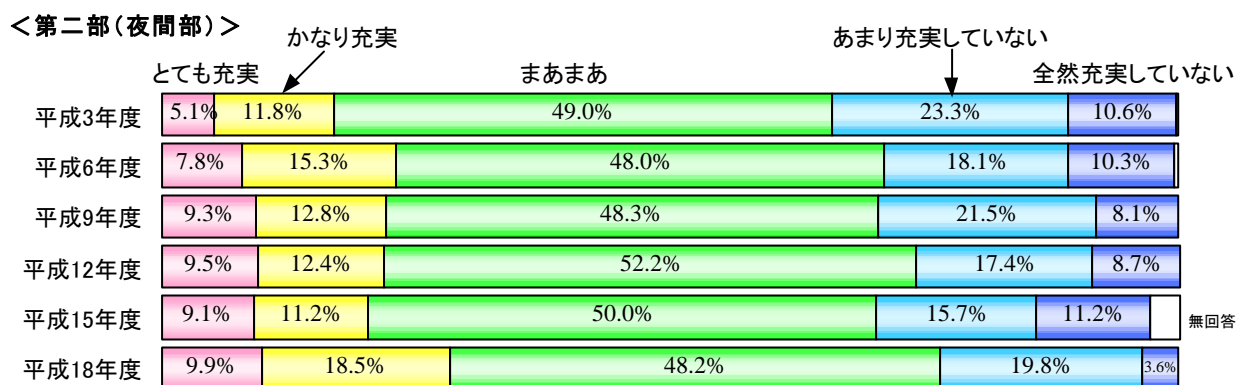
・過ごす場所



5. 学生生活充実感の経年変化

3年前より、生活が充実している学生の比率は第二部(夜間部)で増加、短期大学部で減少。
通信教育部は「とても充実」が増加。

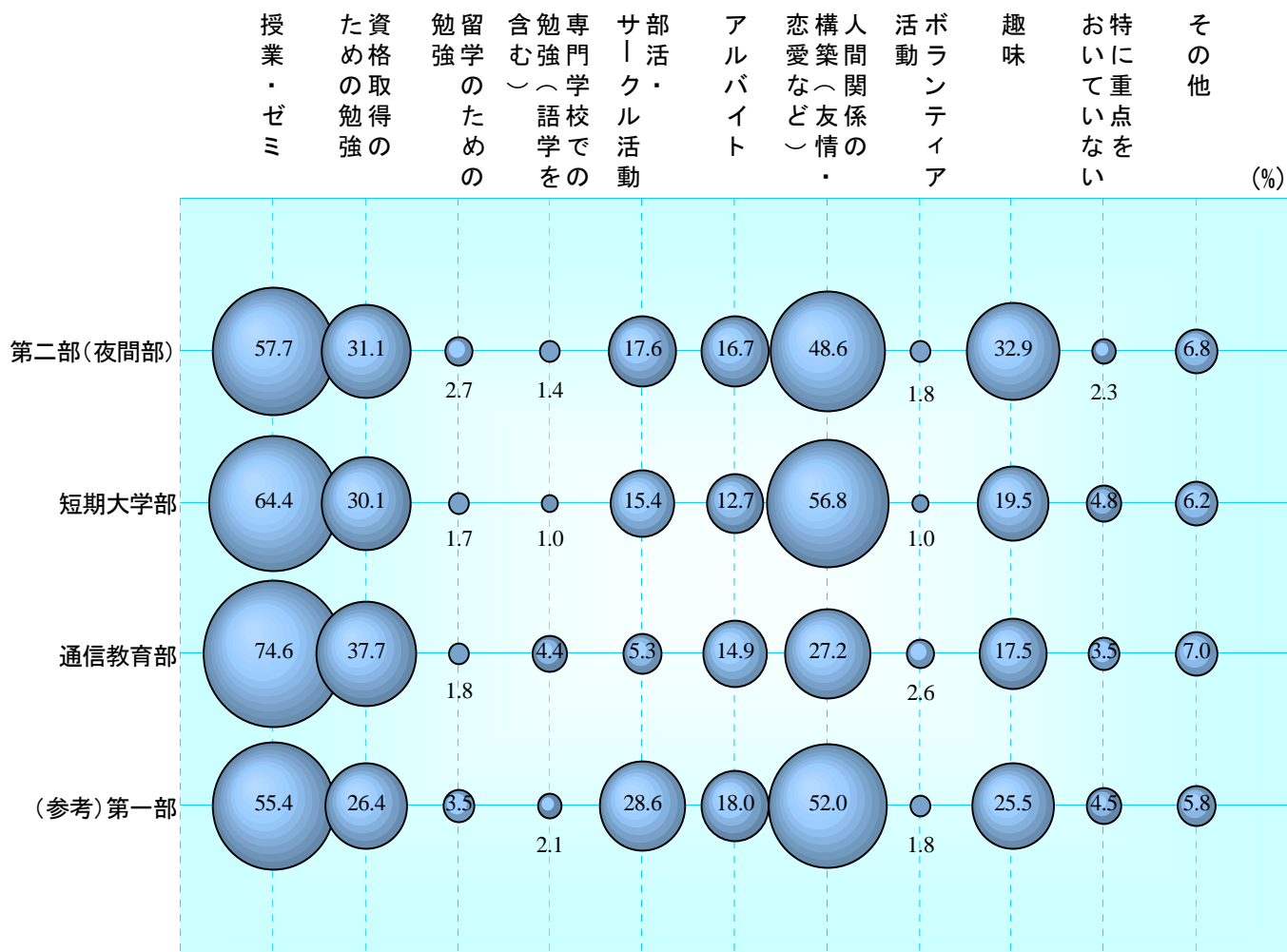
学生生活の充実感について第二部(夜間部)の経年変化を見ると、今回(平成18年度)は3年前より充実した学生の比率の増加が目立ちます(「とても充実」と「かなり充実」の比率の合計が0.3%から28.4%)。短期大学部を見ると、第二部(夜間部)より充実感の高い学生の比率が高い傾向にあるものの、充実した学生の比率は3年前より3.8ポイント減少し31.2%となっています。通信教育部では、短期大学部よりさらに充実感の高い学生の比率が高い傾向にあり、「とても充実」とする学生の比率が3年前より3.3ポイント増加し20.2%になっています。



6. 学生生活で重要視すること

学生生活では、「授業・ゼミ」を重視する傾向が強い。
「人間関係」重視は相対的に低い傾向。特に通信教育部で顕著。

学生生活で重要視することを見ると、第二部(夜間部)、短期大学部、通信教育部共に「授業・ゼミ」がトップになっています。二番目に高い項目は、第二部(夜間部)と短期大学部では「人間関係の構築」、通信教育部では「資格取得のための勉強」となっています。第二部(夜間部)と短期大学部では「人間関係の構築」より「授業・ゼミ」、通信教育部では「授業・ゼミ」と「資格取得のための勉強」のウェイトが重く、第一部とはやや異なる傾向が見られます。

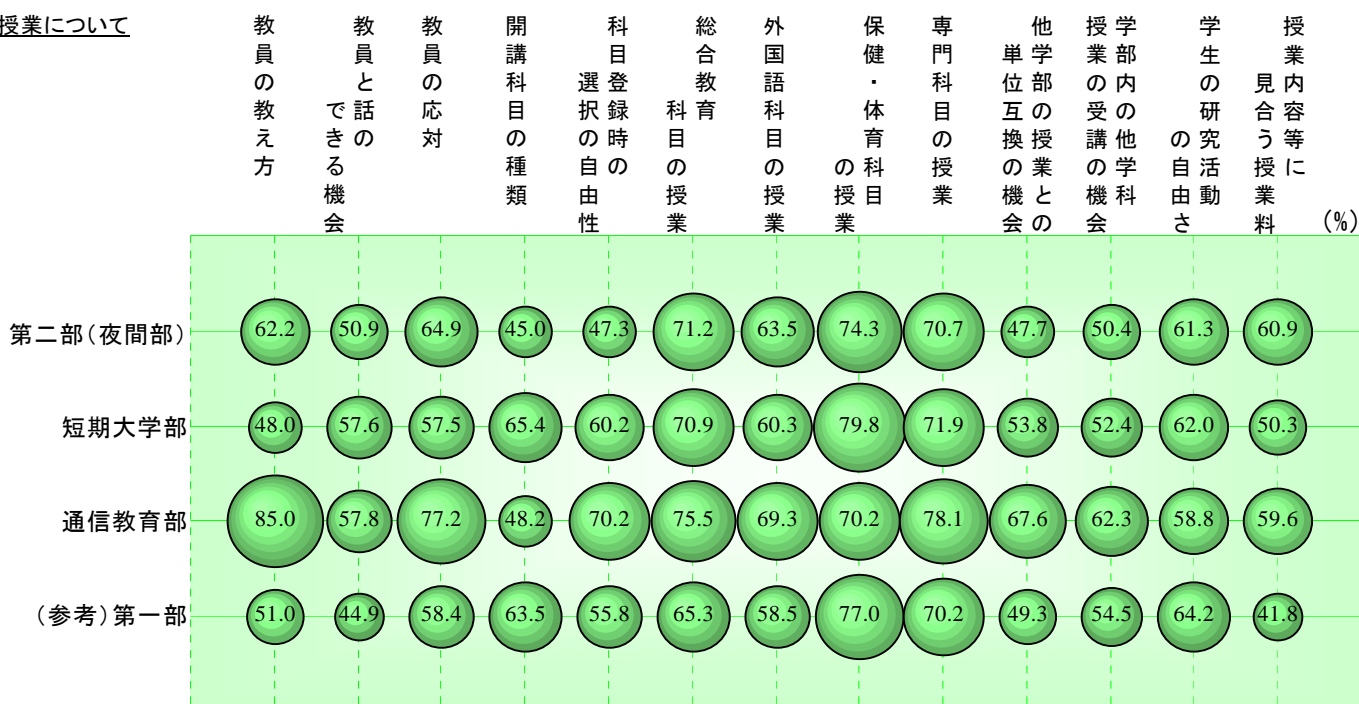


7.授業および対応サービスについての満足層の比率

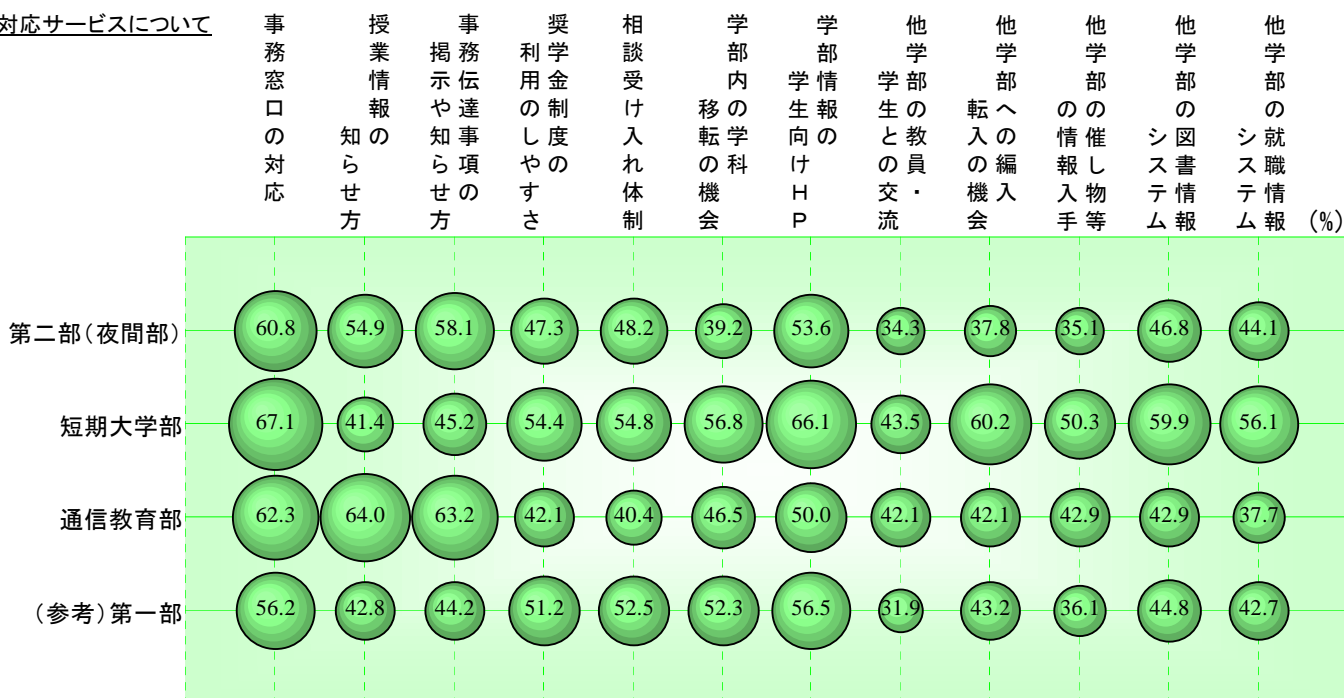
通信教育部と第二部(夜間部)は、教員に対する満足層の比率が高い。
短期大学部は、教員と対話できる機会・事務窓口の対応・他学部との交流に満足度が高い。

満足層(とても満足+どちらかといえば満足)の比率を見ると、第二部(夜間部)、短期大学部、通信教育部共に「保健・体育科目」「総合教育」「専門科目」の授業が70%以上と高くなっています。通信教育部で「教員の教え方」と「教員の対応が」80%前後と高い点が目立ちます。第一部より比率が10ポイント以上高い項目は、第二部(夜間部)では「教員の教え方」「授業料」「授業情報の知らせ方」など、短期大学部では「教員と話の出来る機会」「事務窓口の対応」「他学部の教員・学生との交流」など他学部との情報システムも含めた交流となっており、それらの点での学生の満足度が相対的に高いことがわかります。

・授業について



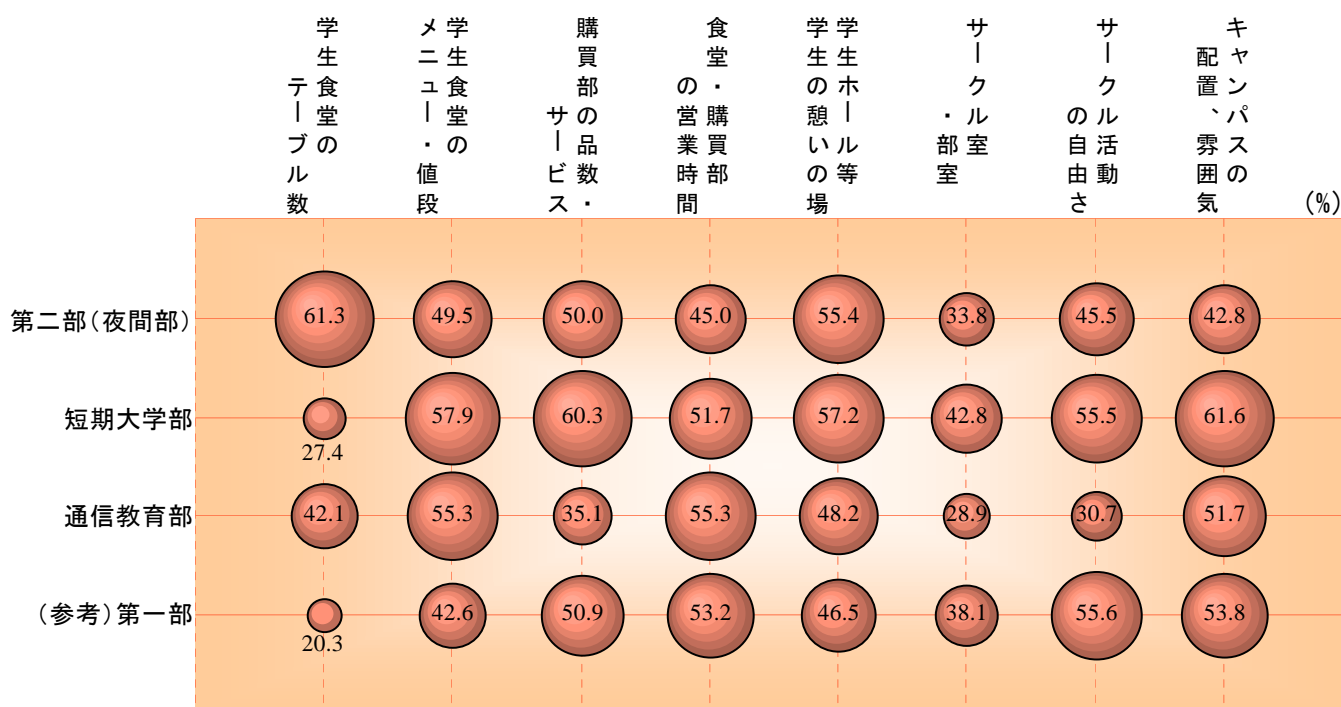
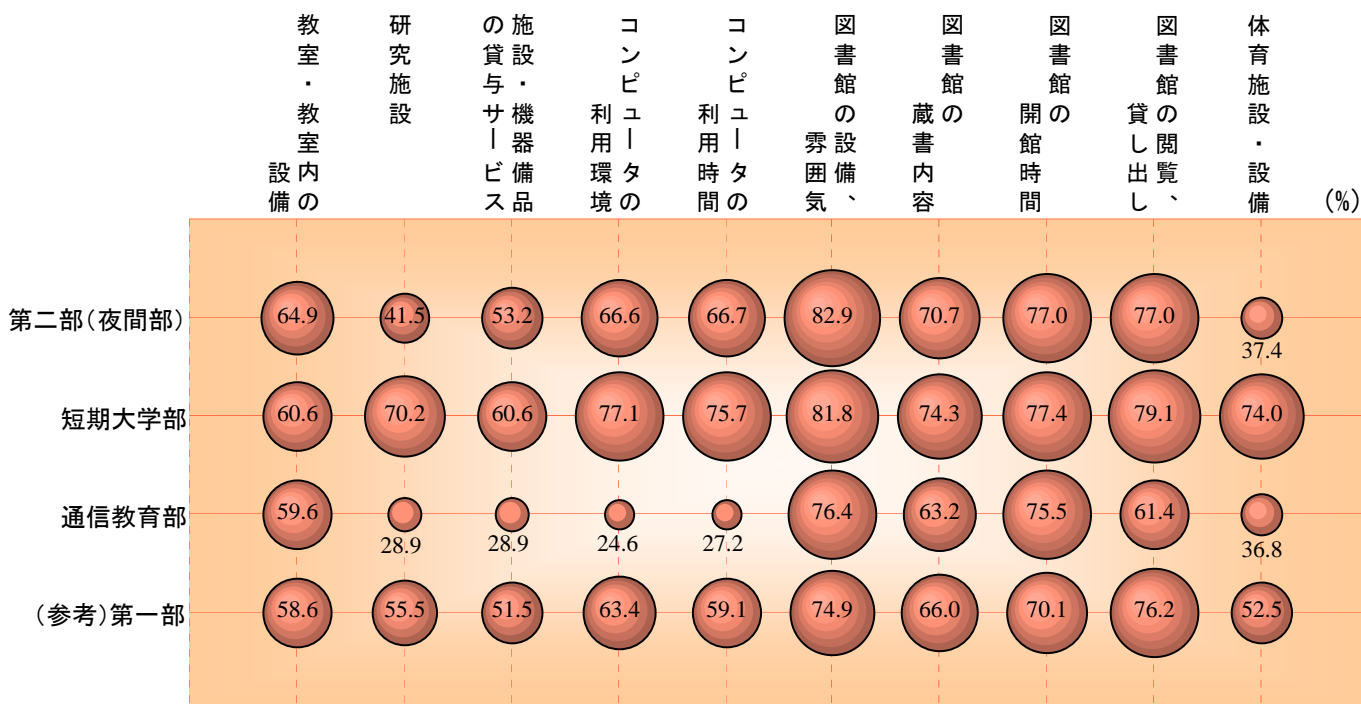
・対応サービスについて



8. 施設についての満足層の比率

図書館についての満足度は、第二部(夜間部)と短期大学部で非常に高い。
短期大学部ではコンピュータや体育の施設の満足度も高い。利用機会も影響？

施設についての満足層の比率を見ると、第二部(夜間部)と短期大学部は、「図書館の設備・雰囲気」など図書館に関する項目が70～80%台と高い点が目立ちます。短期大学部ではさらに、コンピュータ設備と体育施設に関しても75%前後と高くなっています。「学生食堂のテーブル数」は、利用時間帯によるものか、第二部(夜間部)で61.3%と第一部(20.3%)に比べて満足率が高くなっています。通信教育部は、使用機会が少ないためか、研究施設やコンピュータ設備の満足率が30%弱と低くなっています。



9.授業外活動

学外の勉学経験は通信教育部で27.2%，短期大学部は第一部の1・2年生と同水準。

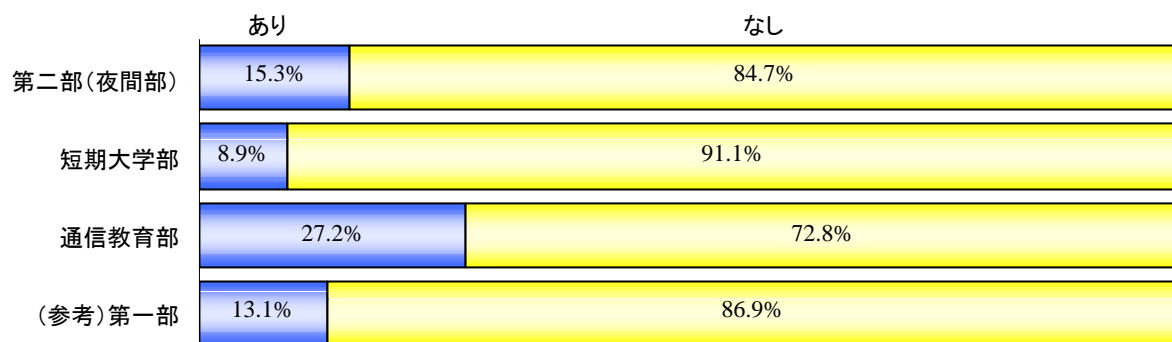
クラブ・サークルへの参加率は，第二部(夜間部)，短期大学部，通信教育部共に第一部よりかなり低い。短期大学部の学生主体行事への参加率は，第一部とほぼ同じ。

知識・技術や資格取得のために学外の各種学校（自動車教習所は除く）などに通った経験がある学生は第一部(13.1%)と比べて，通信教育部で27.2%，第二部（夜間部）で15.3%と高くなっています。短期大学部（8.9%）は第一部の1・2年生（8.2%）と同水準と見ることができます。

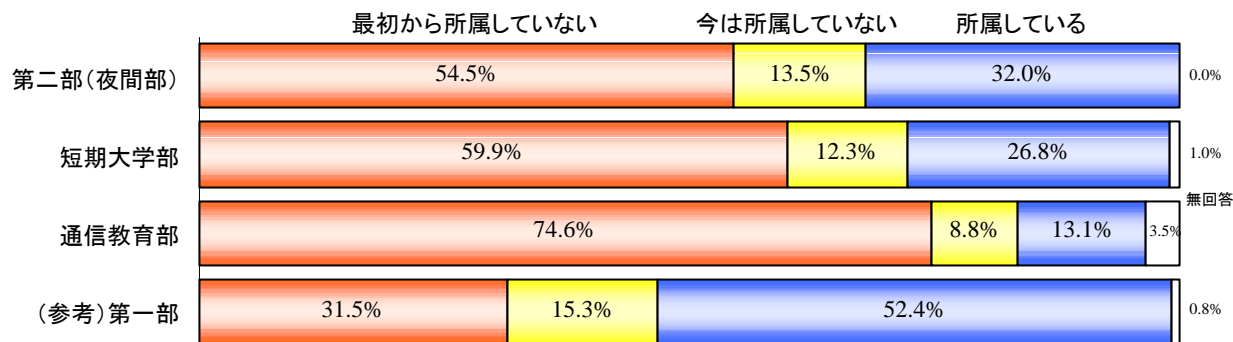
クラブ・サークルの所属率は，第二部（夜間部）で32.0%，短期大学部で26.8%，通信教育部で13.1%と，第一部（52.4%）を大きく下回っています。

学生主体行事への参加率は，短期大学部で44.5%と第一部とほぼ同じとなっていますが，第二部（夜間部）は26.1%，通信教育部は7.9%と低い点が目立ちます。

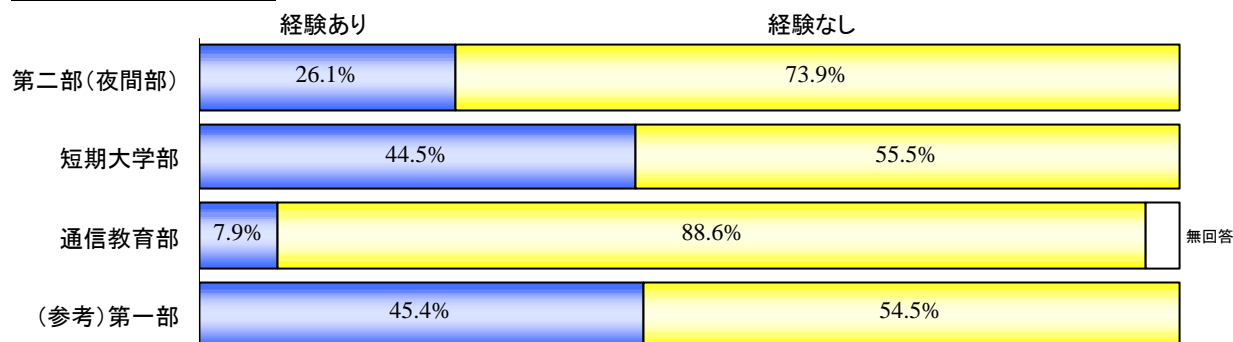
・学外の勉学経験の有無



・クラブ・サークルへの参加の有無



・学生主体行事への参加率



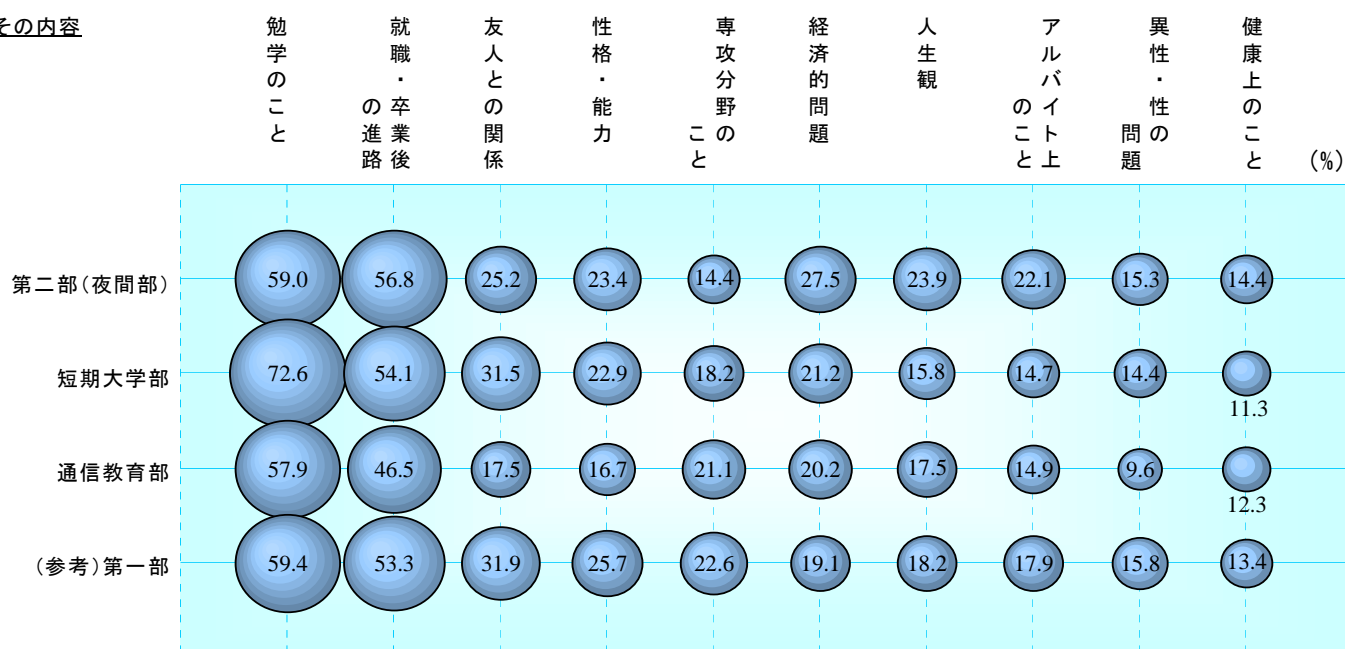
10.不安・悩み・トラブル

第二部(夜間部), 短期大学部, 通信教育部共に, 不安・悩みは「勉学のこと」がトップ, 「進路」が続き第一部と同傾向。第二部(夜間部)は「経済問題」も高め。短期大学部では「イライラが多い」学生が4割。

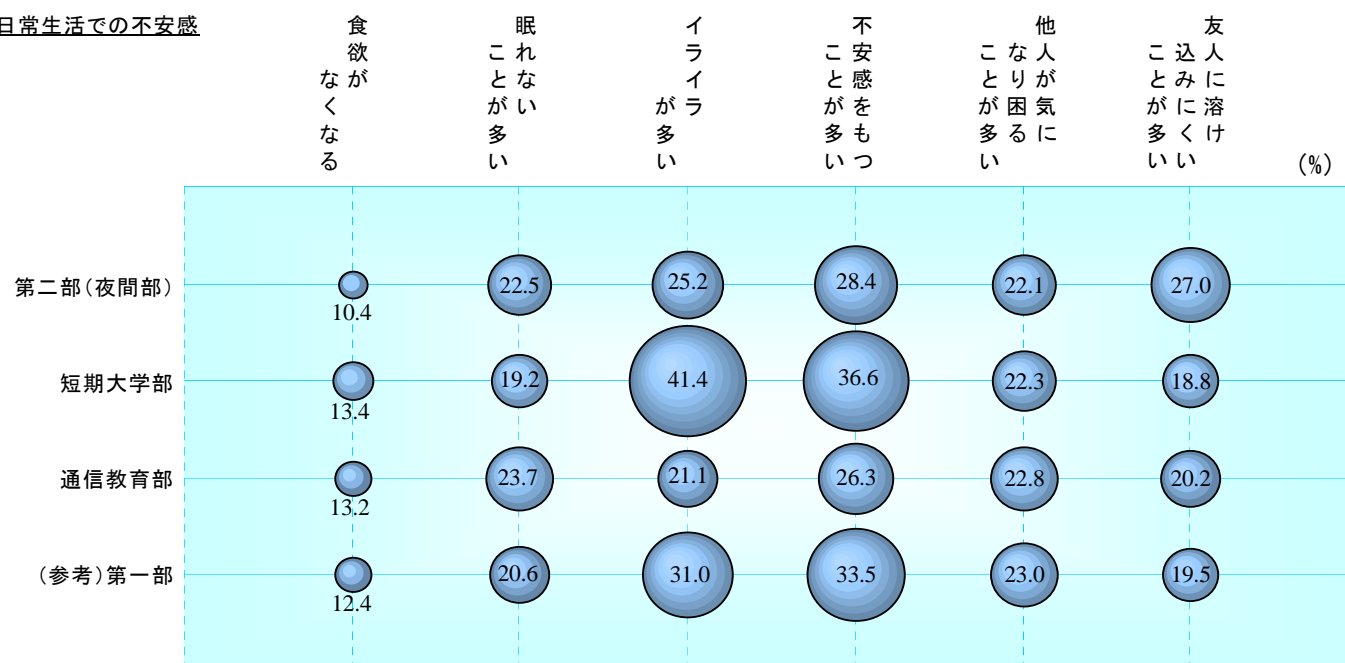
在学中に経験した不安・悩み・トラブルなどを見ると, 第二部(夜間部), 短期大学部, 通信教育部共に「勉学のこと」が最も高く「就職・卒業後の進路」が続いており, 第一部と同傾向となっています。短期大学部は「勉学のこと」が72.6%と高い点が目立っています。第二部(夜間部)では, 「経済的問題」を挙げた学生が27.5%で3番目に高い比率となっています。

日常生活での不安感を見ると, 短期大学部で「イライラが多い」(41.4%)「不安感をもつことが多い」(36.6%)学生の比率が高い点が目立っています。第二部(夜間部)では, 「友人に溶け込みにくいことが多い」学生が27.0%と他の学部と比べて高くなっています。

・その内容



・日常生活での不安感



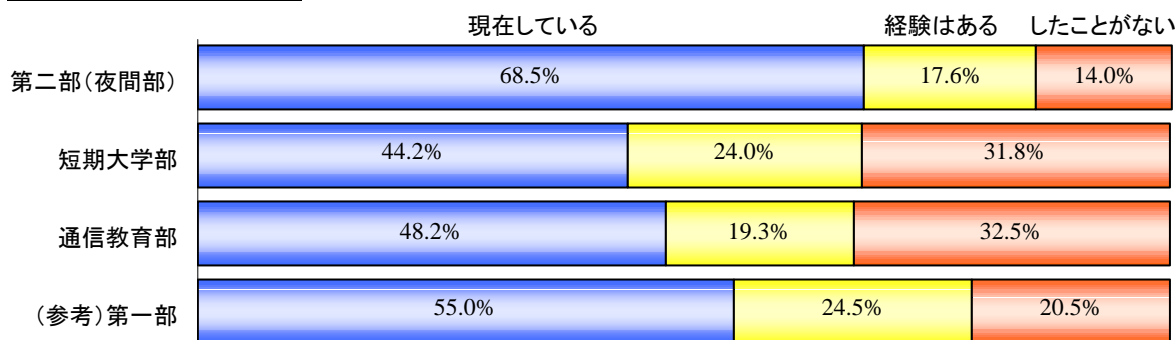
11.アルバイト(定職を含む)経験の有無

アルバイトを現在している学生は、第二部(夜間部)で7割にとどまる。
短期大学部と通信教育部は第一部よりアルバイト比率が低い、勉学に専念の傾向？

アルバイト(定職を含む)を「現在している」学生は、第二部(夜間部)では68.5%、短期大学部で44.2%、通信教育部で48.2%となっています。第二部(夜間部)でも現在アルバイトをしていない学生が3割いることになります。

第一部と比べると、短期大学部と通信教育部は現在アルバイトをしている学生の比率が低い一方、「したことがない」学生も3割と高く、勉学に専念している学生の比率が高いように思われます。アルバイトをしている学生の7~8割は「長期アルバイト(6か月以上継続)」ですが、第一部の学生と比べると「短期アルバイト」や「定職」の比率が高くなっています(第二部(夜間部)と通信教育部で「定職」は10%強)。

・アルバイト(定職を含む)経験



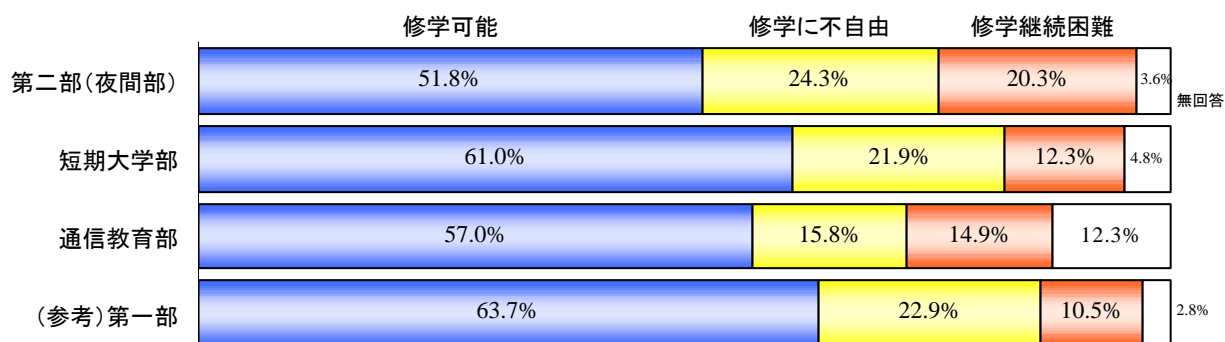
12.保護者等からの支出のみで修学可能か

修学上経済的問題を抱えている学生の比率は、第二部、短大で第一部の学生より高い。
第二部（夜間部）の学生の2割は修学継続困難と経済問題が深刻。

保護者などからの支出で「修学可能」な学生の比率は、短期大学部で61.0%、通信教育部で57.0%、第二部（夜間部）で51.8%となっており、第二部（夜間部）、短期大学部、通信教育部共に第一部より低い数値となっています。「修学継続困難」な学生が第二部（夜間部）で20.3%と高い点が目立っており、通信教育部でも14.9%、短期大学部でも12.3%と第一部よりも修学上経済的問題を抱えている学生の比率が高いことがわかります。

第二部（夜間部）では、「奨学金を申請する必要がない」と答えた学生は44.1%にとどまっており（第一部では47.5%）、「奨学金の給付を受けたい」（26.1%）、「奨学金の貸与を受けたい」（12.6%）と奨学金に対する希望が強くなっています。

・保護者等からの支出のみで修学可能か



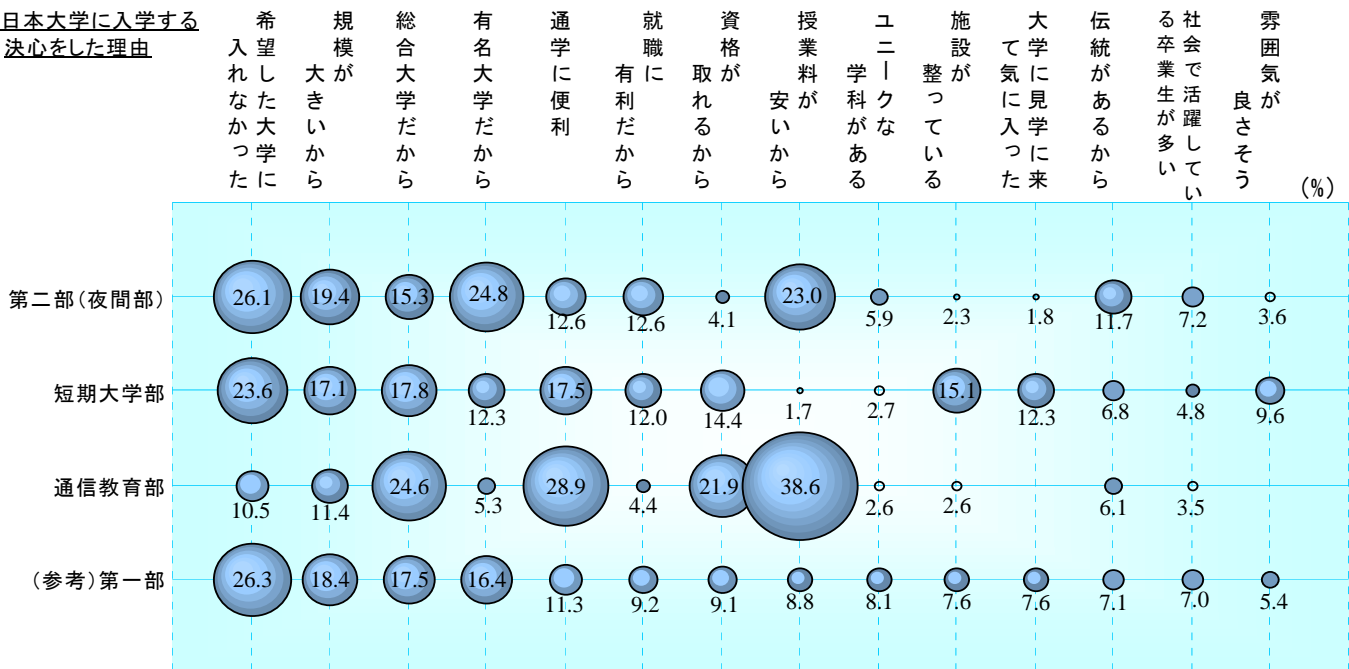
13.日大に入学する決心をした理由と入学直後の意識

入学理由を第一部と比較すると、第二部と通信教育部は「授業料の安さ」が高い。短期大学部は、日大入学は良かったが、他の学部・学科に入りたかった学生が多い。

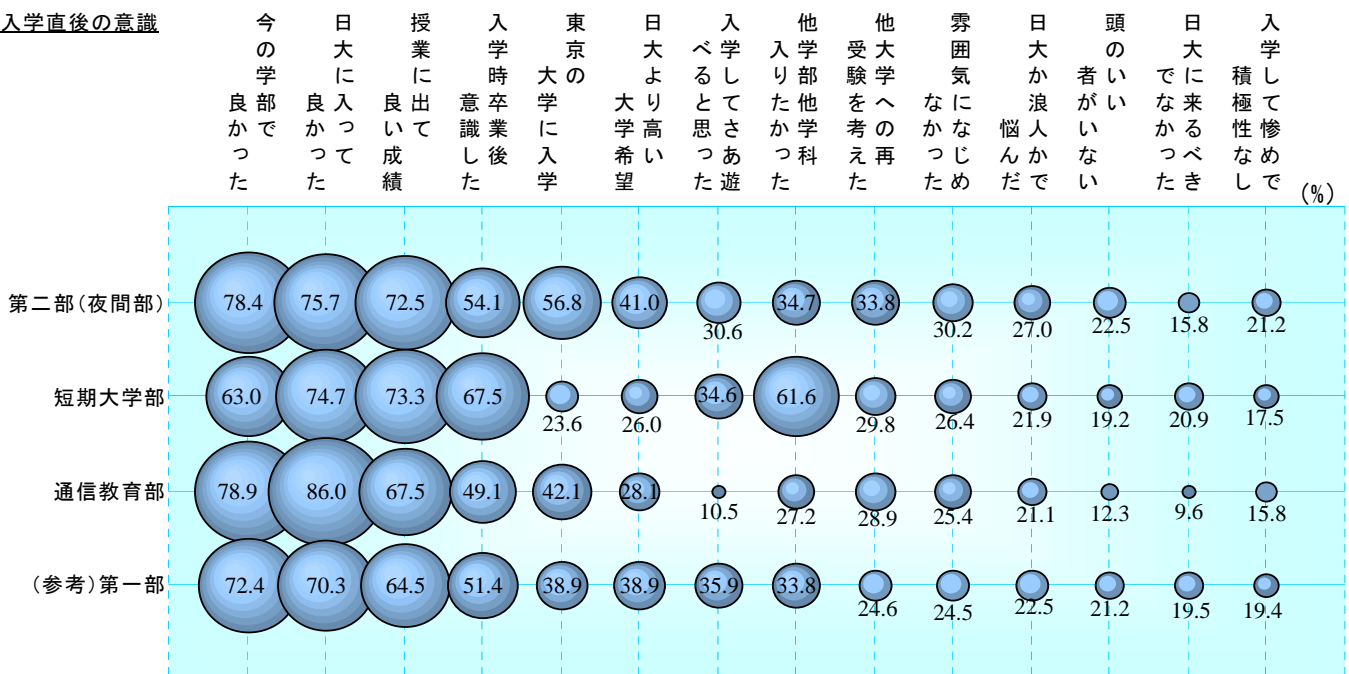
日大に入学を決心した理由を、第一部での高い順(出現率5%以上)に並べたものが図の上段です。第二部(夜間部)と短期大学部では「希望した大学に入れなかった」が第一部同様トップとなっていますが、第一部に比べて前者では「有名大学だから」「授業料が安いから」、後者では「施設が整っている」「大学に見学に来て気に入った」という理由が高い傾向が見られます。通信教育部は「授業料が安いから」が38.6%でトップとなっています。

入学直後の意識を、第一部での高い順に並べたものが図の下段です。第二部(夜間部)と通信教育部では、今の学部や日大に入って良かったという意識が第一部より高く、短期大学部では、日大に入って良かったが他の学部・学科に入りたかった学生が相対的に高くなっています。

・日本大学に入学する決心をした理由



・入学直後の意識

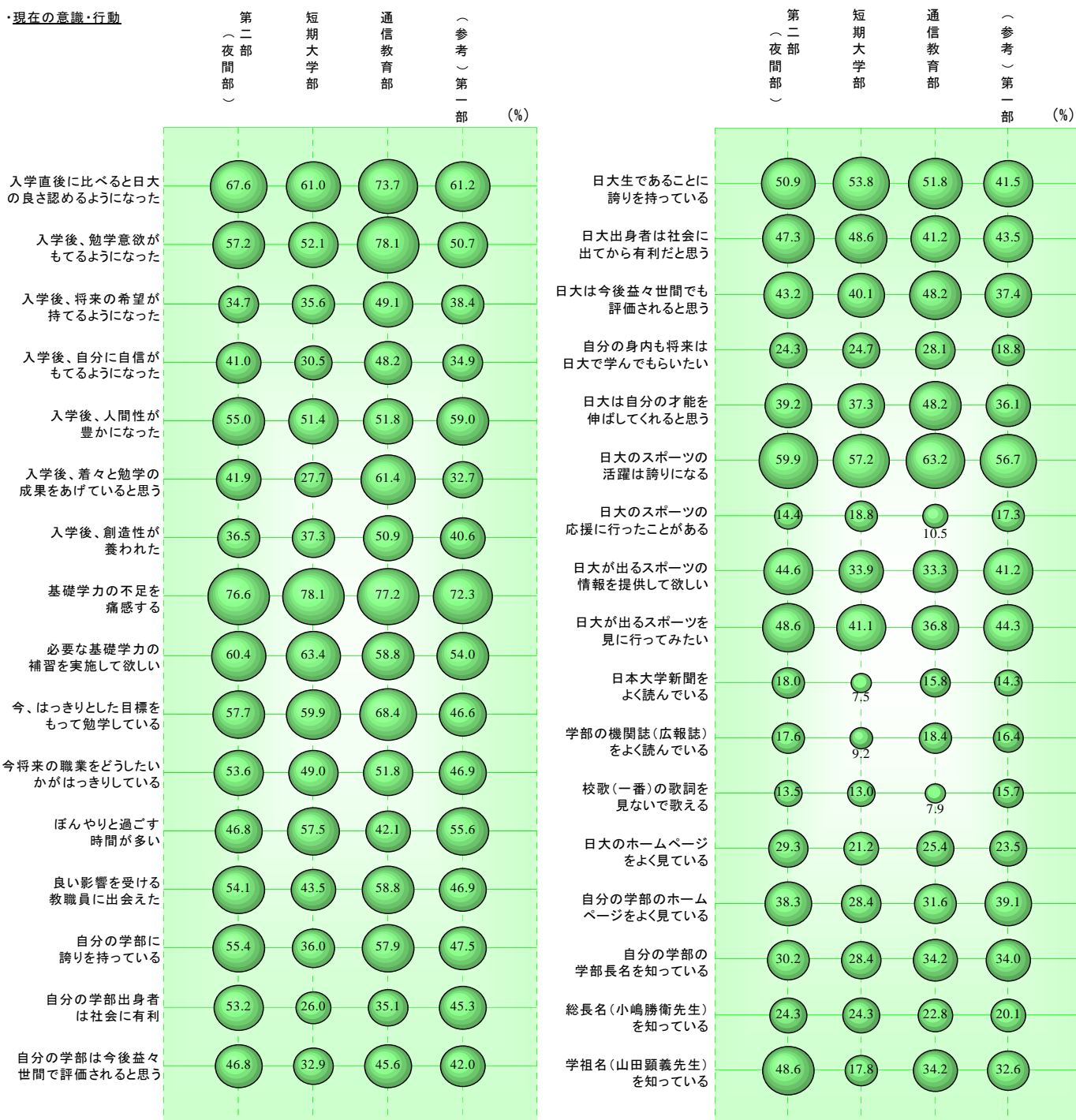


14.現在の意識・行動

現在「基礎学力の不足を痛感」している学生が80%弱、補習の要望も約60%。
第一部学生より、勉学意欲が高く日大生であることに誇りを持つ傾向。

学生の現在の意識について見ると、第二部（夜間部）、短期大学部、通信教育部共に「基礎学力の不足を痛感する」が80%弱と高く「補習の実施」を希望する学生、「今、はっきりした目標を持って勉学している」学生も60%前後で共に第一部の学生よりも高くなっており、勉学意欲の高さが表われています（通信教育部では「入学後、勉学意欲がもてるようになった」が78.1%でトップ、「入学後、着々と勉学の成果をあげている」も61.4%と高い）。第二部（夜間部）、短期大学部、通信教育部共に「日大生であることに誇りを持っている」が50%強で、第一部より約10ポイント高くなっています。しかし、短期大学部では、「自分の学部を誇りに持っている」は36.0%と低いようです。「日大の良さを認めるようになった」は第二部（夜間部）と通信教育部で70%前後と高くなっています。

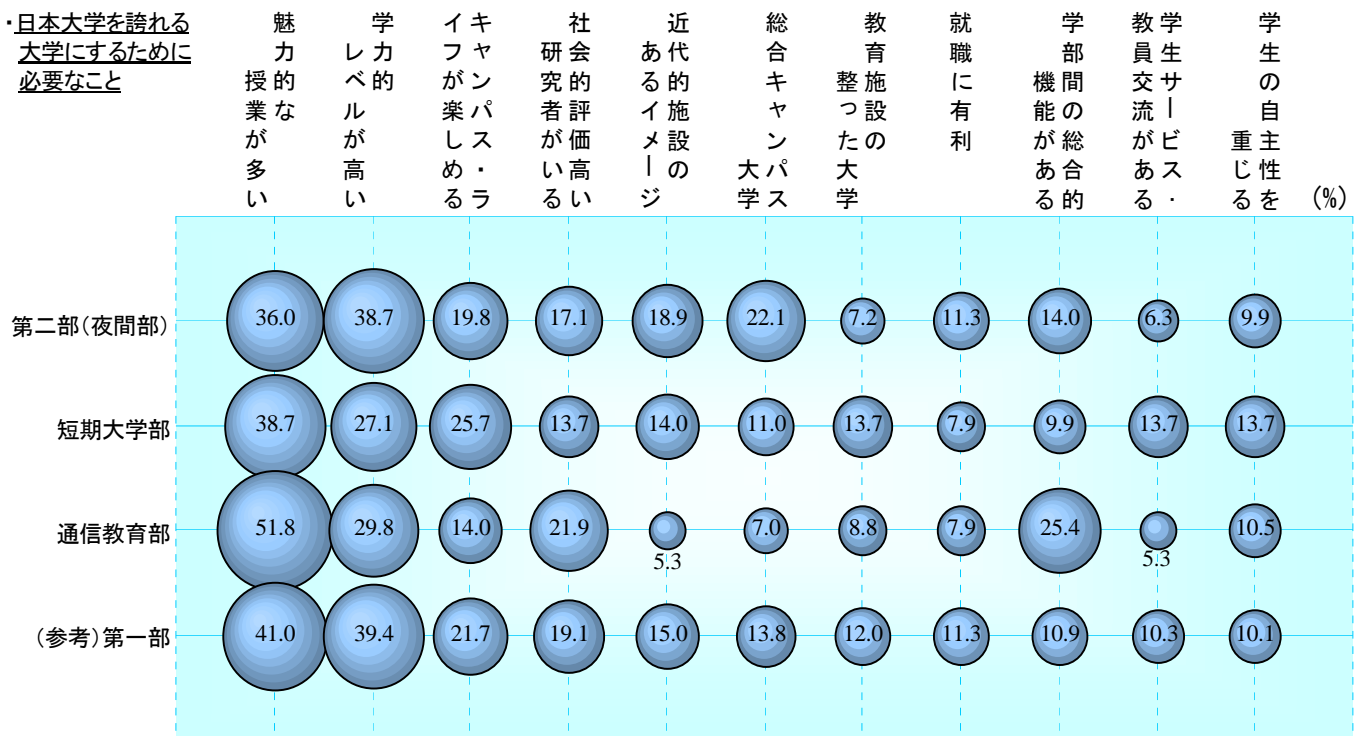
・現在の意識・行動



15. 日本大学を魅力ある誇れる大学にするために重要なこと

「魅力的な授業」と「学力レベル」のアップが日大の政策面で有効！第一部と同傾向。
短期大学部はキャンパス・ライフ，通信教育部は魅力的な授業の多さも重視傾向。

本大学を魅力ある大学にするために特に重要なことについての学生の回答を見ると，第二部（夜間部），短期大学部，通信教育部共に「魅力的な授業が多い」と「学力的レベルが高い」が上位2位となっています。第二部（夜間部）では「総合キャンパス大学」，短期大学部では「キャンパス・ライフが楽しめる」，通信教育部では「学部間の総合的機能があること」が3番目に高くなっています。第一部と比べると，第二部（夜間部）は「総合キャンパス大学」と「学部間の総合的機能」，短期大学部は学力レベルよりキャンパスライフの楽しみ，通信教育部では「魅力的な授業の多さ」と「学部間の総合的機能」の比率が高い傾向が見られます。



16.将来の不安と進路に関して得たい情報・知識

第二部(夜間部)と短期大学部では、将来の不安は「自分の能力」、進路に関して得たい情報・知識は「自分の職業適性」が40%強でトップ。通信教育部の学生は「就職できるか」という不安を持っている学生の比率が高め。

将来について感じている不安を見ると、第二部(夜間部)と短期大学部では第一部同様「自分の能力でやれるか」が40%強で最も高く、「就職できるか」が続いています。第二部(夜間部)では「資格が得られるか」、短期大学部では「専攻が合っているか」「勉学が将来役立つか」といった不安も高くなっています。通信教育部では「就職できるか」がトップとなっています。

進路について得たい情報・知識について見ると、第二部(夜間部)、短期大学部、通信教育部共に「自分の職業適性」が40%前後でトップ、「社会人としての常識」が20%台で二番目となっており、第一部と同傾向を示しています。「資格試験の対策」は、第二部(夜間部)では18.9%と高く、短期大学部では編入希望者が多いためか8.9%と低くなっています。通信教育部では、「価値観形成」と「語学」への要望も高いようです(各15.8%)。

